

第九 昭和十七年末

一、重慶ハ飽ク迄完極ニ於ケル聯合國側ノ必勝ヲ  
盲信シ特ニ日本ノ武力壓迫焦莫ヨリ離隔シ得  
ベキニ一慮安堵シ極力対日抗戰ノ維持繼續ニ  
努ムル傍ラ対日反攻戦力ノ温存培養ニ着手ス  
ベシ。之カ為ニハ益々自強ノ方途ヲ講ズル  
ト共ニ米ニ注許シテ輸血動脈タル印支補給ノ  
再開増強ニ依リ抗戰危機ノ克服ヲ企圖スベキ  
ニ情勢ノ急速ナル轉換困難ナルト我々對支處  
理根本方針ヲ採用ニ伴フ抗戰名目ノ弱化トモ

二、米ハ差当リ一部ノ空軍ヲ支那ニ投入シ印支空  
輸ノ増強ニ努メ以テ重慶ノ抗戦ヲ直接支援ス  
ルト共ニ政治的援蔣ニ依リ重慶ノ抗戦意志ノ  
維持ニ努ムベシ。

三、國共関係ハ依然大ナル變化ナカルベシモ中共  
勢力ノ拡大ハ漸次進捗スベシ。

四、対支處理根本方針ノ採用ニ伴ヒ我が方占據地  
施策ハ相当ノ效果ヲモタラシメ我が戦争指導ニ寄  
與スル所甚カラザルモノアルベク此際軍ハ南  
他ノ諸情勢特ニ南方戰勢ノ推移トモ関係シ大

0385

規模ナル對支積極進攻ヲ一時中止シ主トシテ  
台據地内諸施策ノ結果ト之ニ依ル成果ノ昂揚  
ニ努ムルヲ要ス。

0386